

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<http://www.araikinuyo.jp>

コロナ対策等1621億円の9月補正予算案審議 来年度の当初予算見通し「850億円の財源不足」

1621億円余に上る本年度9月補正予算案が神奈川県から9月8日開会の県議会第3回定例会本会議に提案され、10月中旬に採決の見込みで審議が行われています。補正予算案は新型コロナウイルス感染症対策が主で、医療提供体制を維持し、感染拡大を防止するための各種措置の財源が組み込まれています。他方で県は9月8日に来年度当初一般会計予算案の編成作業の参考にするための財政収支見通しを発表しました。それによると歳入が2兆150億円、歳出が2兆1000億円で850億円の財源不足となり、県財政は「引き続き危機的な状況」にあるとしています。

9月補正予算案では同感染症対として数々の予算が組まれています。いずれも今後、感染症が下火にならなくても対策がスムーズに行われるようにとの観点から組まれているものです。「診療・検査体制の維持」では、患者（疑いのある人も含む）受け入れに必要な病床確保等に関する空床確保料を補助し、行政検査の民間検査機関への委託、検査費用の自己負担相当額の公費負担を行うための財源を計上してあります。1150億円で、9月上旬で約2200床だったものを2400床まで拡大した場合に備えてのものです。「軽度・無症状患者宿泊療養施設の借り上げ等」でも9月上旬でホテルの約2800室だったものが約3800室まで拡大してもいいように予算を計上して（223億円余）います。また「新型コロナウイルスワクチン接種体制の強化」としての新規事業も盛り込まれています。多くの接種事業に取り組んでもらっている医療機関への支援金や補助金を支給するもので118億円余を計上しています。

「来年度一般会計当初予算案編成に当たっての財政収支見通し」について、県は850億円の財源不足が見込まれるとしています。歳入の項では海外経済の回復による企業収益の持ち直しなどから県税・地方譲与税が580億円の増になると見込まれ、国庫支出金や県債費が2021年度当初に比べ220億円改善される半面、県税の増などにより国からの地方交付税・臨時財政対策費が440億円減り、貯金である財政調整基金の減など690億円が減ることになり、結局、歳入は330億円の不足が見込まれるとしています。これに介護・医療・児童関係費の増、水害対策費など歳出520億円の増が見込まれます。財政調整基金は赤字である再生団体に陥らないため660億円を超える残高が必要とみられていますが、県の残高は約300億円になります。

これが言いたい!

緊急事態宣言の発出や延長に伴う飲食店へ協力金を交付するための補正予算を含め、今回の補正予算の提案は今年度15回目となります。コロナ感染症対策に加え、台風などの自然災害への対応などによる追加の財政需要が生じる可能性があります。その一方で、財政調整基金は、令和3年4月に見込んでいた令和3年度末残高は350億円でしたが、度重なる補正予算により取崩され、残高が300億円となると見込まれています。令和4年度予算編成に際しては、事業の優先順位を見極め取捨選択していく必要があります。

今月のひと言

県では、県独自に設置しているワクチン接種会場（新横浜国際ホテルマナーハウス【横浜市港北区新横浜3-7-8】）で県内在住の受験生等の方々のワクチン接種を行っています。また、同会場では県内の妊婦及び同居家族の方の接種も行っています。



磯子あれ? これ?

牛頭山 妙法寺 (磯子区杉田)

妙法寺には日本武尊にまつわる伝説があり、もとは弘法大師巡錫の地と言われた古寺で当地の村(自下村^{しげむら})の名を付けた自下寺と呼ばれていました。

建長5(1253)年、日蓮聖人が安房国から鎌倉に新宗教の布教に訪れ、その影響を受けた領主の荒井因幡守光善が後に乱世の世を厭い仏道修行を志しました。ある日、境内の牛頭天王のお堂に参籠したところ、天王から「汝の師は下総中山の日祐なり」とのお告げを受けました。

晩年には日蓮宗の総本山身延山を訪ね、法主から日荷の法号を受けました。

その後、日荷上人は私財を投じて寺を改修・改名し、「牛頭山妙法寺」としました。日荷上人が身延山を訪れた際に仁王像二体を独りで担ぎ奉納したとの逸話があり、当寺は足腰に御利益があるとも言われています。

山門前には、昭和59年12月に「かながわの名木」に選定された樹齢約600年の「ビャクシン(和名いぶき)」樹高10m、周囲5.2mの大木があります。

参考:横浜市史・磯子の史話

活動報告

9月22日に、私が幹事長を務める女性活躍推進議員連盟(会長:小川くに子県議会議員)では、WEリーグ初代チェアの岡島喜久子氏による講演会を開催しました。

WEリーグは2020年7月に設立され、2021年9月に開幕した日本女子プロサッカーリーグです。「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」の理念の元に、設立意義として、①日本の女性活躍社会を牽引する。②日本に「女性プロスポーツ」を根付かせる。③日本の女子サッカーの発展に貢献する。④なでしこジャパンを再び世界一にする。の4つを掲げています。WEリーグでは試合がない日を「WE ACTION DAY(理念推進日)」とし、理念である多様性社会の実現に向けた活動を行うことにしています。

なお、WEリーグは11チームあり、神奈川県には「ノジマステラ神奈川相模原」が参入しています。



岡島喜久子氏

あらい絹世プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/株メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 安全安心特別委員会委員
- 自民党県議団政務調査会筆頭副会長
- かながわ自民党女性議員局長

